

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	はなはの基本理念を基に年度毎、及び各館毎の理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を基に毎日のケアを実践し、利用者一人一人が心安らげる生活を送れるよう取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の方へは面会時などに話すよう意識し、又、目のつく所に掲示している。地域の方々へは運営推進会議を通じて理解が得られるよう取り組んでいる。	○  地域の方々へ折々に理念の啓発に努めたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常の散歩や神社へのお参りの他、地域で行われる運動会、盆踊り、神社祭りなどに参加し地域の人達との交流を行っている。又、実習生の受け入れも行っているが、今年度の依頼はない。	○  今後も地域との関係作りを強化していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解、周知し、職員と一緒に自己評価を行い改善を行っている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて地域の人達との関わりが増し、様々な意見をいただき地域との連携やサービスの質の向上に努めている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今まで市担当者は運営推進会議には出席しませんが、相談毎や教えていただきたい事など必要に応じて連絡をとり質の向上に努めている。	○ これからは運営推進会議に出席していただけるとの事で、今までにも増して市と連携をとりサービスの質の向上に努めたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている方がおり、必要な方への支援が行われている。	○ 成年後見制度を利用している方はいないので、今後は勉強の機会をもつようにして理解を深めたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については職員で話し合いを行い、理解、認識しており防止に努めている。	○ 今後も話し合いの場を持ち、職員一人一人がゆとりをもってケアできるような職場作りをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退去時は十分に話し合いや説明を行い、理解、納得をしていただいている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や態度、さりげない声掛け等でその人の思いを感じ、出された意見には速やかに応じて改善に努めている。	○  常日頃から利用者の表情に注目し、不安解消に努めたい。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話、又、ホーム便りで随時報告している。金銭については月毎で出納を作成し、領収書と一緒に渡している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に家族と意見交換できるよう面会時などに声をかけ、家族の心配事、意見等を聞き取り、出された意見は改善に努めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや会議等で意見を聞き、出された意見は職員全員で話し合うなどして反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応できるよう24時間連絡可能な体制をとっている。又、他館との協力体制も整っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際は引き継ぎがスムーズに行えるよう十分に時間をとり、利用者へのダメージをできるだけ少なくするよう配慮している。同じグループホーム内での異動であり、顔馴染みである事からほとんど混乱はみられない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ参加するようにし、受講後の報告書で職員全員が共有できるようにしている。又、内部研修や認知症関連の書物を取り寄せ勉強し、サービスの質の向上に努めている。	○	20年度は年間の研修計画を作成し、サービス質の向上に努めたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、施設訪問時等での交流はもっているが、具体化されていない。	○	同業者との交流、連携を通じて日々のサービス向上に繋がるような機会を作っていきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスが溜まらないよう常日頃から話しやすい雰囲気を作っている。又、親睦会等をもっている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者がほぼ毎日訪れ利用者とふれあったり、職員と交流している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受ける際には時間をかけアセスメント、コミュニケーションをとり今までの介護を評価するなど、信頼関係を作る事を第一としている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を伺い、必要なサービスや支援が受けられるよう、担当ケアマネ等と相談し対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意志を尊重し安心して生活できるよう家族から情報を聞きながら相談、協力しあい利用していただいている。	○  本人の状況を見極め、不安要素を取り除くようにしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が得意な事、不得意な事を把握し、出来ることを一緒に行い良好な関係を築いており、お互いに常に感謝の気持ちで接している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時やその他で本人の状態の説明を行い、お互いが信頼関係を作る事で本人を支えていくよう取り組んでいる。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の思いを理解し、行事へ家族の参加を勧めたり、本人の状態を報告したりして良い関係が保てるよう支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活を重視し、馴染みの美容院へ行ったり、家族、友人に電話をしたり可能な限り希望に添うようにしている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り関係を上手く持つようにしている。利用者同士がお互いに協力しあう場面でも見守りを行っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先や他施設に会いに行ったり、退居後もいつでも相談に応じる事を伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活での関わりの中で本人の気持ちや意識環境を理解し、希望を把握できるよう努め、家族からも情報を得るようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、友人などから今までどのように生活してきたか状態把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その人の経験、能力、出来ることなどを把握して、生活の中で活かす事ができるようにしている。又、それらの事を職員が共有できるよう、毎日の申し送りなどで話をしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を重視し、月1回のミーティングで職員の意見を取り入れたり、日常的に意見交換を行い介護計画に反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族の要望を取り入れ計画を作成し、必要に応じて随時、計画の見直しや検討を行っている。	○ 今後は看護師による長谷川式スケールを行い、介護計画に反映させる予定である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、日々の様子や状況、本人の言葉や健康状態を記録し職員間で情報の共有を行い状態把握に努め、計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の必要に応じて対応している。系列の医療機関の夏祭りに家族一緒に参加するなど、利用者の楽しみの場も作っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々への働きかけを行い、利用者が安心して生活できるようにしている。	○	今後はもっと地域への働きかけや啓発を行い、協力していただくようにする。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてケアマネジャーや福祉用具専門員、各機関と連絡をとり、サービスを利用できるよう支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	現在は行われていないが、今後は色々な事で相談や連絡をとりながら協働していきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	内部研修等で終末期についての心構えや対応などについて、もっと理解を深めるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必要に応じて本人の生活状況や注意点など情報提供を行い、家族と協力しながら本人の不安を取り除くよう努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が同じ目的意識をもって利用者に関わる事ができるように、ミーティング等で再確認をしながら行っている。	○	施設内研修を行い修正、改善をしたり、外部研修を受け、それを職員全員で共有した上で利用者への対応姿勢を向上させていくよう取り組んでいく。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	パーソンドケアを第一に考え、利用者一人一人に合わせた声掛けを行い、職員の押しつけではなく、自分の希望を自分で決める事ができるように支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の認知レベルでの生活障害や行動障害を解決し、日常生活を好きなように過ごす事ができるよう柔軟な支援を行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者個人の好みを尊重し、おしゃれを楽しむ事ができるよう支援している。又、希望によって本人の行きつけの美容院へ出掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞きながら献立を作ったり、利用者と一緒に配膳、片付けを行っている。食事の時は同席して会話をしながらさりげなく食べこぼし等への対応を行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、飲酒、喫煙を希望する方はおりませんが、出来る限り本人の嗜好を楽しむ事ができるよう支援しています。又、食事制限があり好きな物を食べられない方にはその都度説明している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、利用者の習慣、排泄パターンを考慮して声掛け、誘導を行い排泄できるように支援している。	○	今後もできるだけトイレで排泄出来るよう誘導方法や時間の検討を行う。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね入浴日は決まっているが、利用者の入浴方法、時間は希望に添えるようにしている。入浴拒否時は無理なく柔軟な対応を行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ軽体操や趣味活動で適度に身体を動かしたり、個々の状況に合わせて休息を促すなど、安眠を支援している。夜間眠れない利用者には話し相手をしたり、お茶を提供するなど落ち着けるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来るという視点から様々な役割や楽しむ機会を作り、能力を引き出すようにして利用者が一つでも自信と役割を持てるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の希望や能力に応じて、又、家族の同意のもと自己管理を行っている。自己管理出来ない方でも買い物時等で自分で支払いができるよう支援している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に合わせて買い物やドライブを行ったり、日常的に散歩や神社参りなどの外出支援を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせた年間行事を作成し、家族も一緒に楽しむ事ができるように支援している。又、個人の希望もできるだけ叶えられるように家族と連絡をとり、協力してもらいながら対応している。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話はいつでも使用できるようになっている。手紙は現在希望者はおられません。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めず、いつでも訪問できるよう支援している。他利用者に気兼ねなく居室にて、ゆっくりすごしていただけるよう配慮し、又、宿泊の希望にも対応できるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意義を理解し全職員でその事を正しく理解、周知し、実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	極力、鍵をかけないようにしているが、職員が手薄になる場合は家族の同意を得て安全性を考慮し施錠する事もある。	○	鍵をかけなくても安全性を確保できるよう取り組んでいく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が見える場所に必ず職員がいて利用者の状況を把握し、夜間は見回りを行い随時安全確認をおこなっている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて自己管理できる物はしてもらい、それ以外の物品については保管、施錠しているが、本人の希望で使用したい時にはいつでも使用できるようにしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個人の状態を把握し、職員間で検討、話し合いを行っている。事故発生時には報告書を作成し原因究明と今後の対策について検討している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルに添って対応できるようにしている。又、看護師による緊急時の対応の勉強会を行っている。	○	今後は定期的に勉強会の場をもうけ、質の向上に努めたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し定期的に消火器の使い方や避難訓練を行っている。	○	地域住民への協力体制を働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常生活の状況を説明し、生活の中で起こりえるリスクについて家族には説明している。状態に変化のあった時にはその都度話し合いを行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者個々の病気の留意点を把握した上で常に顔色や食欲など様子観察を行い、体調の変化を察知し早期発見に努め、状況に合わせた対応を行っている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋はファイルしており、いつでも内容を確認、把握できるようにしている。個々に一日分の薬を分別して、氏名、日時を確認して間違いずに服用できるよう支援している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い利用者の状態に合わせた対応を行っている。乳製品は必ず一日一回は摂り、又、適度な運動を習慣にしている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛け、誘導を行い個々の習慣や能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録しており、栄養バランスなどを考慮している。体調の変化で食事を摂れない時は粥食にしたり、主治医に相談して栄養補助食品を処方していただいたり、利用者一人一人への対応を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する知識や予防マニュアルは常時、目のつく所に貼りだし、除菌、消毒などの感染予防対策も実行している。インフルエンザの予防接種は全利用者、職員が行っている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品や布巾の除菌、清潔保持の為、毎晩消毒を行い、食材なども新鮮な物を提供するなど衛生管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく出入りができるように門扉や建物の周りには庭木を植えたり、玄関には季節の花を飾るなど家庭的な雰囲気作りを心掛けている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、食堂、廊下には季節に合わせて製作した飾りや写真を展示して、利用者が自由にゆったりと過ごす事ができるようにしている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭には東屋があり、所々に椅子を置くなどしてホーム内だけではなく、一人になったり気の合う利用者同士がくつろげる場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者は各々使い慣れた家具、装飾品等を持ち込 み、植物や季節の花を飾るなど、その人らしい部 屋作りをしている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	全室床暖房となっており、利用者の状況に合わ せて温度調節を行っている。空気清浄機を常時使 用し、換気には十分配慮するなど、快適に過 ごせるよう心掛けている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、要所に手 すりを設置している。又、利用者の身体状況の 変化に応じて、車椅子、シルバーカーなど を使用し、自立した生活ができるよう 配慮している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	利用者個々の状況変化に合わせ混乱を招か ないようにその都度環境の要因を考え、改 善に取り組み、安心して生活が出来 るよう努めている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動 できるように活かしている	中庭には芝生を植えており、草取りや水ま きをしたり、畑で収穫した作物を味わ う喜びを再確認し、東屋ではお茶を 楽しんだり焼き肉をしたり活 動できる環境が整い、それを活か している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がいつでも笑顔で安心して生活できるよう基本理念に掲げている「心癒され安らぎのある家（はなは）」を目標に毎日接しています。又、医療機関の系列であり、24時間体制で連携をとり利用者の健康管理を行い、精神的、身体的安定を図っています。